

DiGiCo SD Series V726+ Appendix

A 版 (2015 年 5 月、ソフトウェア・バージョン 726+)

目次

1.1 新機能	4
1.1.1 概要	4
1.1.2 merge input (マージ入力)	4
1.1.3 「ident」 ボタン	4
1.1.4 チャンネル・フィルター (SD5、SD7、SD10) と出力 EQ	4
1.1.5 ギャング範囲	5
1.1.6 「Fader Banks」 パネル	5
1.1.7 「Aux Sends to Faders」 パネル	6
1.1.8 スナップショットの呼び出し	6
1.1.9 スナップショットの移動	6
1.1.10 「Snapshot View Options」 パネル	7
1.1.11 「Snapshot MIDI List」 パネル	7
1.1.12 「Solo」 タブ (「Options」 メニュー)	8
1.1.13 「Console」 タブ (「Options」 メニュー)	8
1.1.14 「Matrix Inputs」 パネル	8
1.1.15 「Audio I/O」 画面	9
1.1.16 「Line Check」 ボタン	9
1.1.17 「Copy Audio」 パネル	10
1.1.18 「Audio Synchronisation」 パネル	10
1.1.19 「Macro Editor」 画面	11
1.1.20 「Meters」 タブ (「Options」 メニュー)	12
1.1.21 「全チャンネル」 の調整	12
1.1.22 Optocore マップ更新	12
1.2 ブロードキャスト固有の機能	12
1.2.1 「Disable」 タブ (「Options」 メニュー)	12
1.2.2 「Solo Upmix/Downmix」 パネル	13
1.2.3 モニタリング	13
1.2.4 バックストップ PFL / フェーダー PFL	13

1.1 新機能

1.1.1 概要

DiGiCo SD Series ソフトウェア・アップグレード V720+ では、ここで詳しく説明する多くの機能が追加されています。標準のコンソール操作方法については、最新の『SD Series ソフトウェア・リファレンス・マニュアル』と各モデルの『クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

1.1.2 merge input (マージ入力)

「merge input」機能を使用すると、バスに追加の信号をミックスできます。まず、バス／出力チャンネルの最上部にタッチして「Setup」画面を開きます。

「merge input」ボタンを押すと入力ルーティング画面が開き、ソースを選択できます。バスに追加する信号のレベルはレベルつまみで調整し、マージ機能の ON/OFF は「on/off」スイッチで切り替えます。



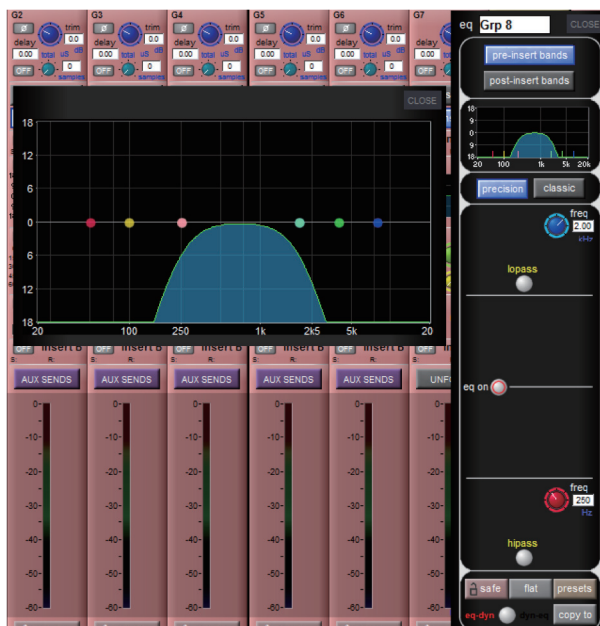
1.1.3 ident 「tone」 ボタン

ident 「tone」 ボタンを長押しすると、出力バスにオシレーター信号がルーティングされます。オシレーターのレベルおよび周波数の設定は、マスター画面の「oscillator」パネルで行います。

1.1.4 チャンネル・フィルター (SD5、SD7、SD10) と出力 EQ

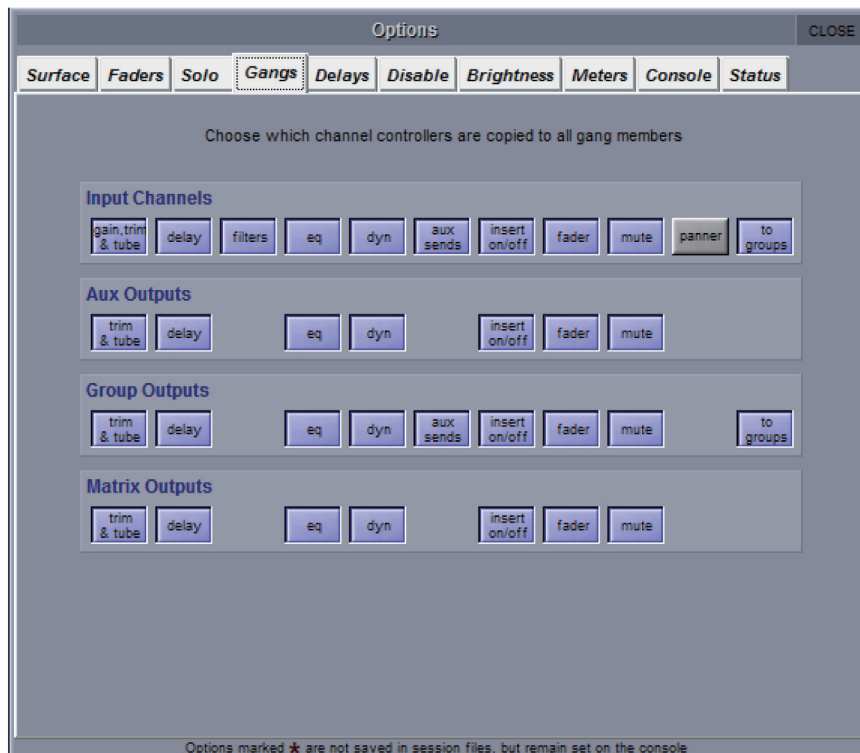
出力 EQ の「pre-insert bands」で「curve」ボタンを押すと、上または下から 2 つのバンドがパラメトリック・フィルターから 24 dB/oct フィルターに切り替わります。フィルター・ポイントの操作は、フィルターのコントロールではなく EQ の「freq」コントロールで行います。測定フィルター・ポイントは -6 dB ポイントです。

拡大表示の「eq」画面にはプリ／ポストインサート EQ ポイントが全て表示され、タッチすることで「gain」および「freq」コントロールを調整できるようになりました。



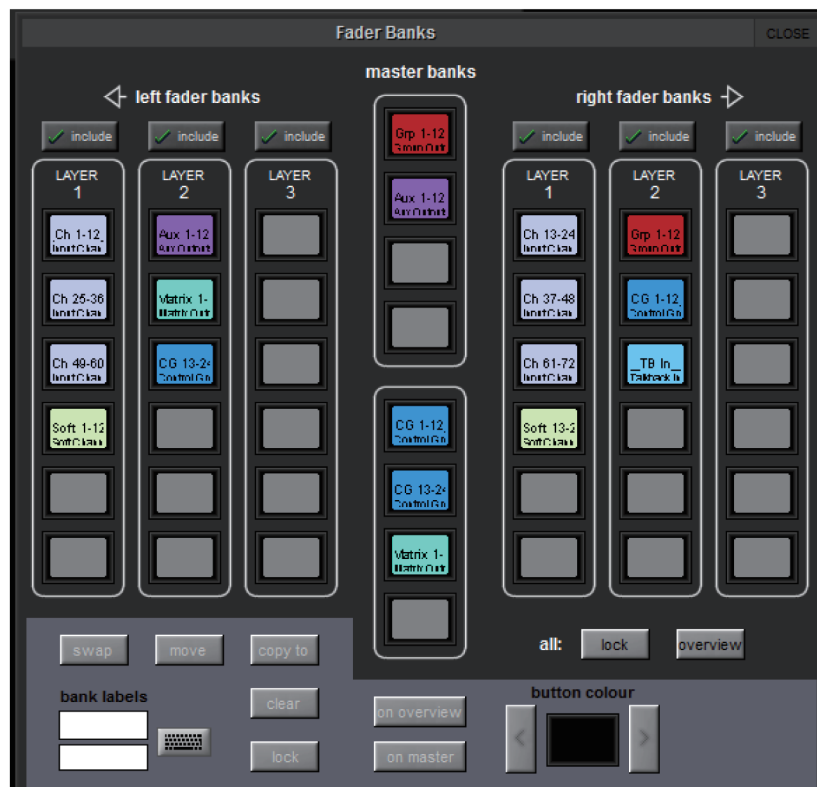
1.1.5 ギャング範囲

マスター画面の「Options」メニューの「Gangs」タブで、ギャングに含めるチャンネル・コントロールを設定できます。選択はチャンネル・タイプごとに、それらのチャンネル内のコントロール・タイプごとに行えます。



1.1.6 「Fader Banks」パネル

表示される各レイヤーの上にある「include/exclude」ボタンにより、コンソール・ワークサフェイスのレイヤー・ボタンを押した時にそのレイヤーを表示するかどうかを設定します。選択はセッション固有ではなくコンソール固有です。セッションには保存されず、各コンソール自体の設定に保存されます。



1.1.7 「Aux Sends to Faders」 パネル

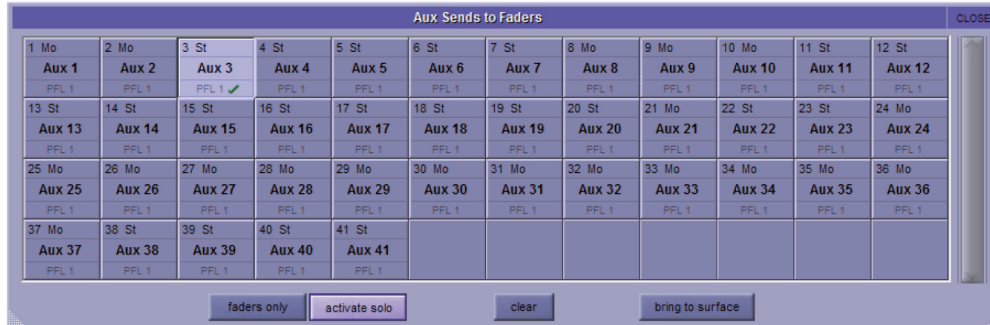
マスター画面「Layout」メニューの「Aux Sends to Faders」パネルで Aux センドを選択すると、その Aux バスのセンズ・オン・フェーダー機能が ON になります。

「faders only」ボタン：選択した Aux バス・センドにチャンネル・フェーダーをアサインします。

「activate solo」ボタン：選択した Aux バス・センドにチャンネル・フェーダーをアサインし、Aux マスターをソロにします。

「clear」ボタン：現在の選択を解除します。

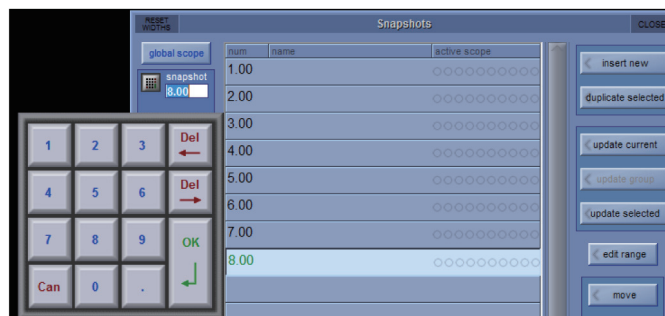
「bring to surface」ボタン：Aux 出力を含む最初のバンクを選択します。



1.1.8 スナップショットの呼び出し

「Snapshots」パネル左上に表示される数値キーパッドで番号を入力することにより、いつでもスナップショットを呼び出せます。

「Snapshots」パネル左上隅のキーパッド・ボタンにタッチし、呼び出したいスナップショットの番号を入力し、「OK」を押します。

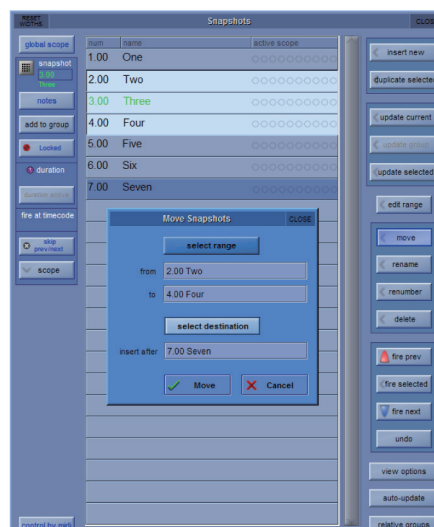


1.1.9 スナップショットの移動

スナップショット・リストを特定の順序で表示したい場合、項目を移動することで順序を変更できます。

- 1) 「move」ボタンにタッチします。
- 2) 最初と最後のスナップショットにタッチすることにより、移動するスナップショットの範囲を選択します。1つのスナップショットを移動する場合は、同じスナップショットに2回タッチします。
- 3) 「select destination」ボタンが自動的にハイライト表示されます。その状態で、スナップショットの移動先にタッチします。
- 4) 「move」ボタンを押して操作を確定します。

※ すで行った範囲選択を変更したい場合は、「select range」ボタンをもう一度押します。このパネルを初めて開いた時の標準操作では、このボタンを3回目に押した時に自動的に移動先選択として入力されます。



1.1.10 「Snapshot View Options」 パネル

「Snapshots」パネル右下の「view options」ボタンを押すと「Snapshot View Options」パネルが開き、スナップショット・リストのテキスト、背景、およびサイズを設定できます。

また、「touch to fire」機能の ON/OFF もこのパネルで行えるようになりました。



1.1.11 「Snapshot MIDI List」 パネル

「Snapshot MIDI List」パネルでは、「move up」/「move down」ボタンを使用してスナップショット／キュー内の MIDI メッセージの順序を変更できるようになりました。また、「dis」列の該当行にタッチすることで、MIDI メッセージを個別に無効にすることも可能です。



1.1.12 「Solo」 タブ (「Options」 メニュー)

「Solo Displays Insert and Output」 オプションは、チャンネルの「Solo」 ボタンを押した時に、そのチャンネルに挿入された、またはそのチャンネルからルーティングされた内部 FX、グラフィック EQ、または Waves プラグインの画面を開くかどうかを設定します。「Graphic EQ」 および「Waves」 パネルはマスター画面にのみ表示できます。デフォルトでは「insert」 オプションが有効です。

「Line Check Listen」 は、「Line Check」 で検聴する音声信号を送るソロ・バスを設定します。



1.1.13 「Console」 タブ (「Options」 メニュー)

「Disable Loopback」 は、Soundgrid 対応機器が存在しない場合、Waves ポートにルーティングされた音声オーディオ・エンジンによってループバックされないようにします。



1.1.14 「Matrix Inputs」 パネル

つまみを選択すると「clear」 ボタンの右上にキーパッドが開き、値を直接入力できます。



マトリクス入力チャンネルの「Setup」パネル最下部に「safe」ボタンが追加されました。

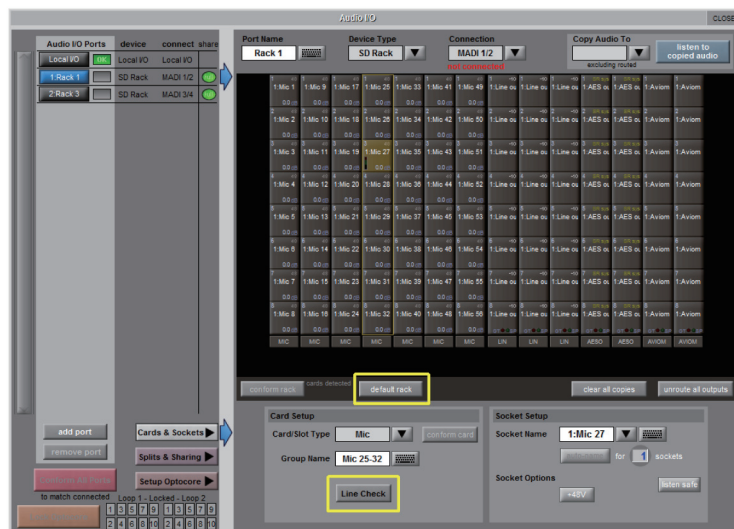
このボタンを ON にすると、マトリクス入力パラメーターがスナップショットの呼び出しから除外されます。



1.1.15 「Audio I/O」画面

「default rack」ボタンを押すと、全てのラック・パラメーター（ゲイン、+48V、パッド、AES SRC など）がデフォルト設定に戻ります。

「Cards & Sockets」メニューに「Line Check」ボタンが追加されました（下の「Line Check」を参照）。



1.1.16 「Line Check」ボタン

「Audio I/O」画面の「Cards & Sockets」メニューに入力ソケットの「Line Check」モードが追加されました。

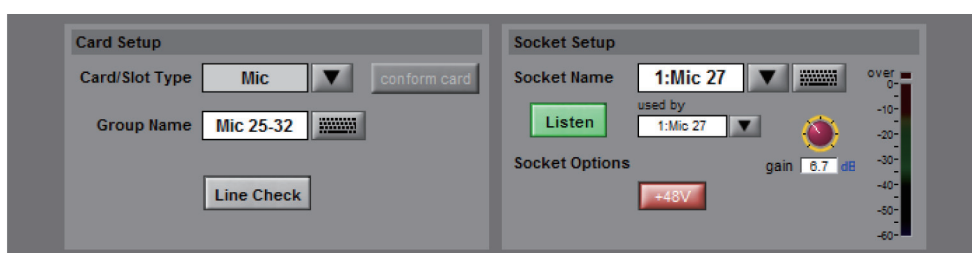
このモードを有効にした状態で入力ソケットにタッチすると、チャンネルにルーティングされているかどうかに関係なく、そのソケットのゲイン／+48V／パッド・コントロールおよび「Listen」機能が使用できるようになります。

ゲインの調整は touch turn エンコーダーで行います。

「Listen」を ON にした場合、「Options」メニューの「Solo」タブでの設定に従って、選択したソケットからの音声は Solo 1 または Solo 2 に送られます。

このソケットを使用する入力のドロップダウン・リストもあります。

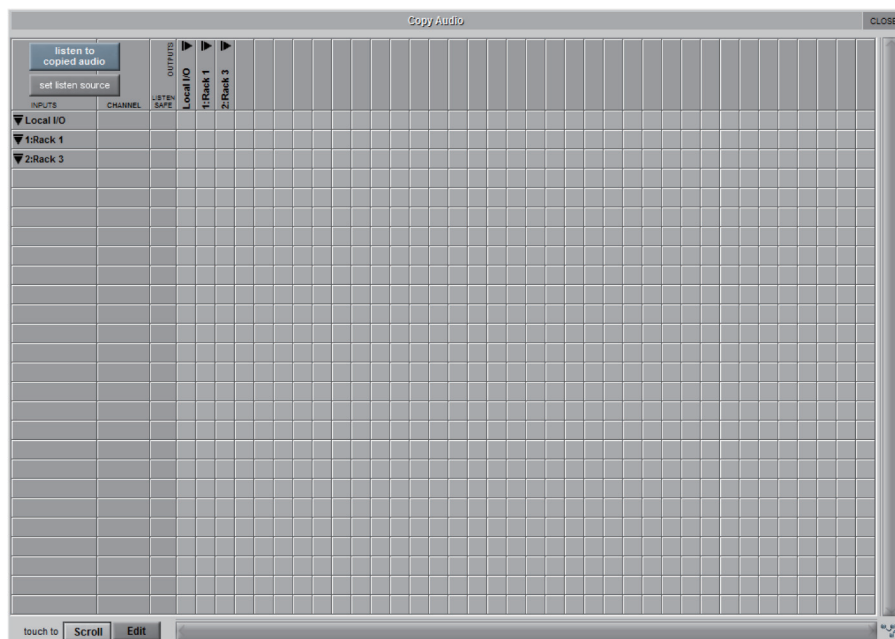
※ この機能は、オーディオ・エンジンを備えていないリモート機器（つまり、オフライン・ソフトウェアまたは EX007）では無効です。



1.1.17 「Copy Audio」 パネル

「Copy Audio」パネルの設定を調整するには、パネル左下隅の「Edit」ボタンを押します。

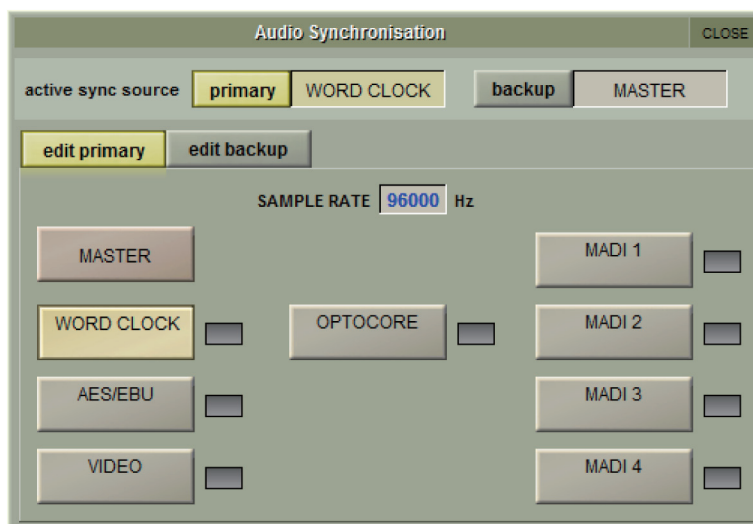
また、「Copy Audio」パネルでの Waves ポートの指定が可能になりました。



1.1.18 「Audio Synchronisation」 パネル

「edit backup」機能により、バックアップ・クロック・ソースの設定も行えるようになりました。バックアップ・ソースは、プライマリー・ソースが切断された場合に自動的に使用されますが、パネルの最上部にあるボタンで手動選択することも可能になりました。

クロック・ソースがバックアップに切り替わると、コンソール・ステータス・バーのクロック・ソース・インジケータが黄色でハイライト表示されます。

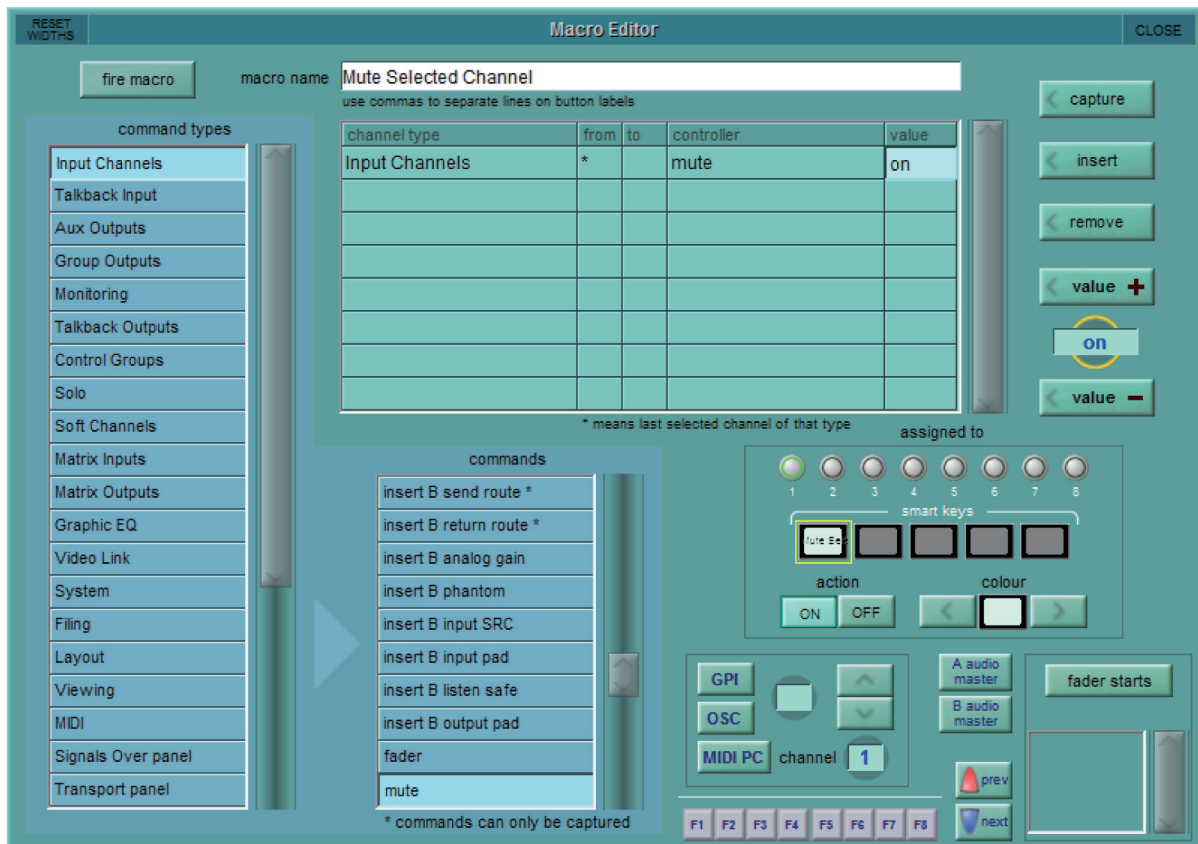


1.1.19 「Macro Editor」画面

マクロは、**最後に選択した**入力チャンネルまたはバスに対して実行するようにプログラムできるようになりました。

マクロの設定方法は従来通りですが、「from」チャンネル番号範囲列内の番号がアスタリスク (*) に置き換わります。

このアスタリスク値は、**touch turn** エンコーダーを使用して「value」ボックスに入力するか、「value -」ボタンを押して最小値（1未満の値）まで設定することができます。



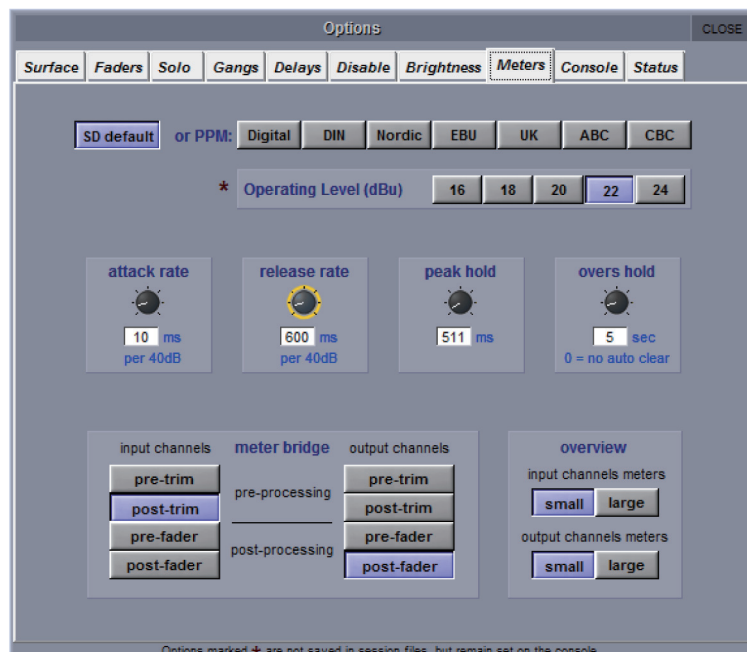
受信 MIDI プログラムチェンジ・メッセージによるマクロの実行が可能です。

MIDI アサインを選択するには、「MIDI PC」ボタンにタッチし、touch turn エンコーダーまたはキーパッドで MIDI チャンネル番号を選択し、コントローラー値を入力します。

※ 「fader starts」によるマクロ実行オプションとして、マルチチャンネルとコントロール・グループが選べるようになりました。

1.1.20 「Meters」 タブ（「Options」 メニュー）

「Operating Level」ボタンが新たに追加されました。このボタンにより、全てのPPMメーターの基準が0 dBuとなるように、PPMメーター表示時の定格レベルの差を補償することが可能です。SD Series コンソールおよびラックの定格レベルは +22 dBu に設定されています。



1.1.21 「全チャンネル」の調整

「Option/All」ボタンを押しながらチャンネルの「select」ボタンを押すことにより、そのチャンネルをバンクの「全チャンネル」から除外できます。このモードでは、LCD 画面に「Include」または「Exclude」が表示されます。

1.1.22 Optocore マップ更新

Optocore マップの更新が必要になると、コンソール・ステータス・バーの「Optocore ID」ラベルがハイライト表示されるようになりました。

1.2 ブロードキャスト固有の機能

1.2.1 「Disable」タブ（「Options」メニュー）

マスター・フェーダー位置からマスター・グループのアサインを解除できるようになりました（SD5、SD7、SD10）。



1.2.2 「Solo Upmix/Downmix」 パネル

ソロ・バス専用のアップミックス/ダウンミックス・マトリクスが追加されました。

ソロ・バス・アップミックスのデフォルト設定は、アップミックスが適用されないように変更されました。

マスター画面の「Solo」パネルの「up/down mix」ボタンを押すと、「Solo Upmix/Downmix」パネルが開きます。

このパネルには、各**ソース・タイプ**に適用されるアップミックス/ダウンミックス・ルールが表示されます。ソース・タイプはパネル最上部のボタンで選択します。

ソース信号（「L」または「R」）を選択すると、そのソース信号のデフォルトのルーティングとレベルが表示されます。

このパネルのボタンを押すことにより、ルーティングの ON/OFF を直接調整できます。また、「**adjust levels**」ボタンを押して、選択した設定の「trim」コントロールを表示し、レベルを調整することも可能です。この調整は、コンソール・ワークサーフェイスの **touch turn** エンコーダーで行えます。

そのほかに、プリセット管理のための「presets」、選択したソース信号をデフォルトにリセットする「defaults」ボタン、そのソース・タイプのソース信号を全てリセットする「**default all**」ボタンがあります。

※アップミックス/ダウンミックス・マトリクスのトリムは、0.5 dB ステップで動作します。

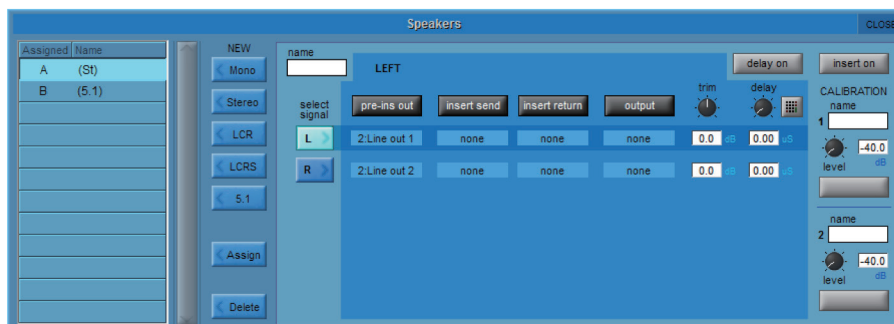


PFL バス（Solo 2）はステレオとして設定できるようになりました。



1.2.3 モニタリング

「Speakers」パネルに「pre-insert out」ルーティング・オプションが追加されました。



1.2.4 バックストップ PFL / フェーダー PFL

マルチに対して、バックストップ PFL およびフェーダー PFL を設定できるようになりました。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3880 FAX: 03-5783-3881

E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <http://www.hibino-intersound.co.jp/>